



2026年3月期第2四半期
決算補足説明資料

カメイ株式会社

東証プライム 8037

01 2026年3月期 第2四半期 決算概要

KAMEI



売上高：268,309百万円（前年同期比 +4.5%）期初予想進捗率：通期 45.8%、第2四半期 102.3%
営業利益：7,111百万円（前年同期比 +11.3%）期初予想進捗率：通期 45.3%、第2四半期 113.6%

■ 事業動向

売上高：全てのセグメントが増収を達成
エネルギー、食料、自動車関連セグメントを中心に伸長

営業利益：食料セグメントは食品・酒類販売の価格改定による増収と利益率改善により、黒字転換
エネルギーはマージン良化により増益。自動車関連は新車販売とレンタカー事業の好調により増益

期初予想との差異：上期売上高進捗率102.3%、営業利益進捗率113.6%と順調に推移
通期見通しに対しては40%台の進捗だが、主力のエネルギーが下期偏重型であるため概ね想定通り

■ トピックス

- ・新たにエネルギーセグメントに1社、海外・貿易セグメントに3社を連結関係会社に追加（9月末の連結関係会社数：55社）
- ・当期間の為替は、ドル円で148.5円（期初計画145円前提）で推移し、前年同期比で3.5円程度の円高

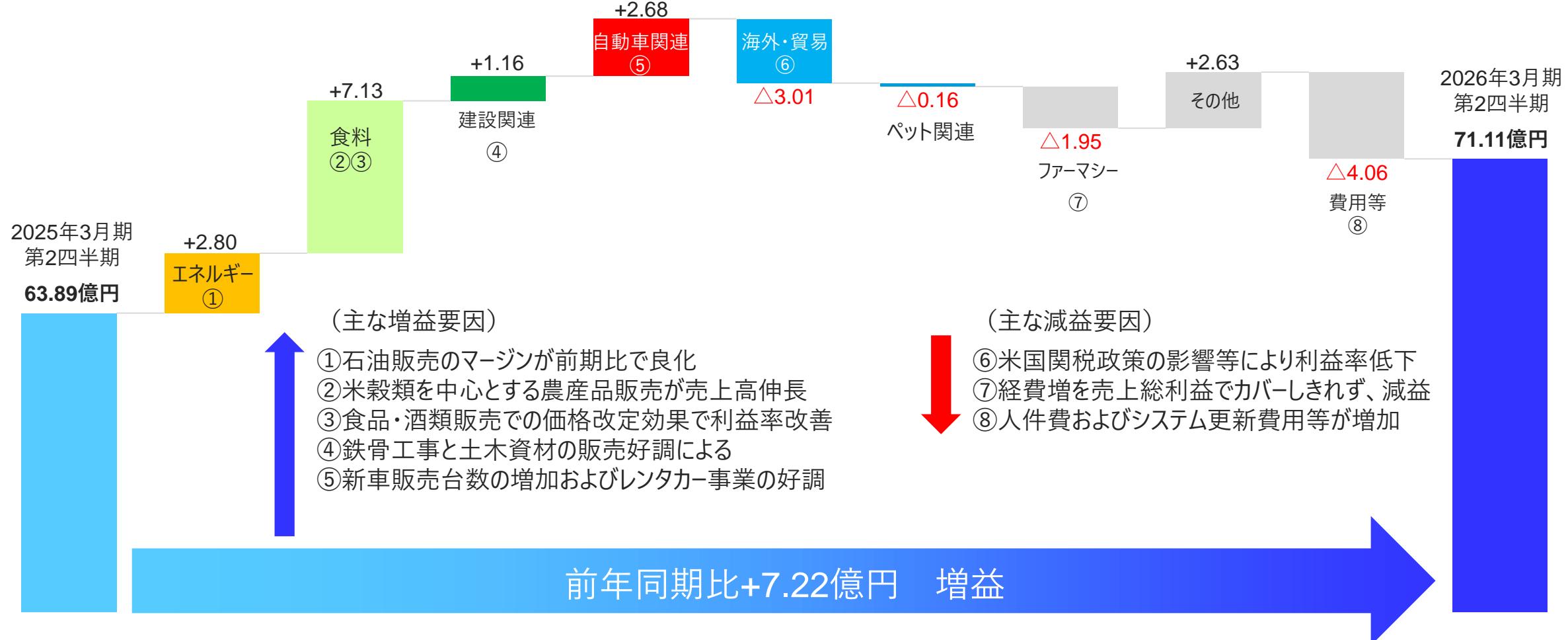
■ 売上高268,309百万円（前同比+4.5%）、営業利益7,111百万円（前同比+11.3%）

■ 収益性も改善（営業利益率2.5%⇒2.7%、経常利益率2.8%⇒2.9%）

	2025年3月期 第2四半期 実績	対売上 比率 (%)	2026年3月期 第2四半期 実績	対売上 比率 (%)	前年同期比 (%)	2026年3月期 第2四半期 期初予想	第2四半期予想 進捗率 (%)
(単位：百万円)							
売上高	256,805	—	268,309	—	+ 4.5	262,330	102.3
売上総利益	42,938	16.7	46,231	17.2	+ 7.7	—	—
販売費及び 一般管理費	36,549	14.2	39,119	14.6	+ 7.0	—	—
営業利益	6,389	2.5	7,111	2.7	+ 11.3	6,260	113.6
経常利益	7,287	2.8	7,681	2.9	+ 5.4	6,840	112.3
親会社株主に帰属する 中間純利益	4,374	1.7	4,746	1.8	+ 8.5	4,130	114.9

■ 食料セグメントが、農産品販売等における增收と価格改定による利益率改善によりグループ利益をけん引
エネルギーセグメントと自動車関連セグメントも好調。自動車関連セグメントが利益額首位

(単位：億円)



各報告セグメントの動向：食料セグメントを中心に増益となる一方、経費増への対応が課題



単位：百万円		2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比	要因（コメント）
合計	売上高	256,805	268,309	+ 11,504	全てのセグメントで増収を達成
	セグメント利益**	6,389	7,111	+ 722	営業利益も増益となり、上期としては前々期に次ぐ好業績
エネルギー	売上高	116,867	120,020	+ 3,153	新たに1社を連結子会社化（8月）
	セグメント利益**	1,611	1,891	+ 280	前同比で石油販売のマージンが良化したことにより増益
食料	売上高	16,824	19,004	+ 2,180	米穀類を中心とする農産品の市況高騰により、売上が大きく伸長
	セグメント利益**	△302	411	+ 713	上記の他、食品・酒類販売での価格改定効果で利益率改善
建設関連	売上高	23,744	24,971	+ 1,227	鉄骨工事の売上が堅調に推移し、増収確保
	セグメント利益**	521	637	+ 116	上記による利益伸長の他、土木資材等も販売好調で増益
自動車関連	売上高	36,810	39,718	+ 2,908	新車販売台数の増加およびレンタカー事業の好調により増収・増益
	セグメント利益**	2,455	2,723	+ 268	
海外・貿易	売上高	41,021	42,097	+ 1,076	新たに3社を連結子会社化（4月）
	セグメント利益**	2,648	2,347	△301	米国関税政策の影響もあり、3社除く既存ベースでは前同比減収・減益
ペット関連	売上高	7,560	7,745	+ 185	ペット関連は、販売数量は前年同期を下回るも高単価商品へのシフトで増収
	セグメント利益**	177	161	△16	園芸関連は、販売数量・売上共に順調に推移。経費増により減益
ファーマシー	売上高	9,682	9,898	+ 216	処方箋応需枚数は低迷したが、処方箋単価の上昇により増収
	セグメント利益**	106	△89	△195	人件費等の経費増を売上総利益でカバーしきれず、減益
その他*	売上高	4,292	4,853	+ 561	各事業とも概ね順調に推移し、増収・増益
	セグメント利益**	270	533	+ 263	
全社費用		△1,099	△1,505	△406	人件費およびシステム更新費用等が増加

* 情報機器の販売、運送業、不動産賃貸業 等

**セグメント利益又は損失は調整額控除前

■ エネルギーの冬季需要期が過ぎ、売上債権、買入債務は前期末から減少

■ 有形固定資産は自動車事業の店舗新改築、新規連結子会社の編入により増加

■ 有利子負債は返済が進み減少

資産の部

(単位：百万円)	2025年9月末	前期末増減
流動資産	171,489	△16,340
現金及び預金	60,058	△2,203
受取手形、売掛金 及び契約資産	63,278	△12,756
商品及び製品	30,780	1,227
固定資産	137,917	5,036
有形固定資産	100,993	2,800
無形固定資産	6,195	217
投資その他の資産	30,728	2,017
資産合計	309,406	△11,304

負債・純資産の部

(単位：百万円)	2025年9月末	前期末増減
流動負債	107,774	△14,545
支払手形及び買掛金	48,226	△8,617
短期借入金	34,148	△3,542
固定負債	32,525	598
長期借入金	5,027	△471
純資産	169,106	2,642
株主資本	143,776	3,937
その他の包括利益累計額	16,791	△1,488
負債純資産合計	309,406	△11,304

02 2026年3月期 通期見通し

KAMEI



■ 全体の見通し：売上・利益の進捗は順調、期初見通し（2025年5月）は変更なし

■ 売上高 5,863億円（前期比 +2.1%）で増収、営業利益 157億円（△1.3%）と前期並みを見込む

■ 上期は期初見通しに対し上振れ。下期は景況感悪化のリスクを考慮し、通期見通しは変更なし

(単位：百万円)	2025年3月期 (実績)	対売上比率 (%)	2026年3月期 (見通し)	対売上比率 (%)	前年同期比 (%)	金額差異
売上高	574,281	—	586,300	—	+2.1%	+ 12,019
営業利益	15,912	2.8	15,710	2.7	△1.3%	△202
経常利益	17,746	3.1	16,950	2.9	△4.5%	△796
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,690	1.9	11,000	1.9	+2.9%	+ 310



(単位：百万円)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (見通し)	前年同期比 (%)	2026年3月期 第2四半期	進捗率 (%)	要因
エネルギー	282,681	285,200	+0.9	120,020	42.1	上期としては順調。構造的な需要減少トレンドは変わらずも、新規深耕開拓でカバー
食料	36,679	38,600	+5.2	19,004	49.2	上期の価格改定の取り組みは着実に進捗。繁忙期にむけた売上高伸長策を進める
建設関連	48,031	48,700	+1.4	24,971	51.3	鋼材高・労務費上昇の価格転嫁は一定程度図れた。売上高の本格的な回復はこれからの見込み
自動車関連	73,584	78,000	+6.0	39,718	50.9	新車供給が回復し、販売台数が増加。レンタカー事業も旺盛なレジャー需要等により好調維持
海外・貿易	89,948	89,100	△0.9	42,097	47.2	為替の影響は期初予想ほどではない見込みだが、米国関税政策の業績への影響が続く
ペット関連	14,311	16,000	+11.8	7,745	48.4	ペット・園芸とも売上高は堅調見込みだが、期初予想には届かない見込み
ファーマシー	19,861	20,700	+4.2	9,898	47.8	処方箋応需枚数が前年割れ。下期にかけても、厳しい見通し
その他*	9,182	10,000	+8.9	4,853	48.5	運送業は下期のウェイトが高いため、上期の進捗としては順調

* 情報機器の販売、運送業、不動産賃貸業 等

■ 報告セグメント利益の見通し：ペット関連（○→△）、ファーマシー（○→△）について
期初見通しから変更も、通期業績への影響は軽微

報告セグメント	評価とコメント	報告セグメント	評価とコメント
エネルギー	△ 構造的需要減が続き、下期は減益予想	海外・貿易	△ 米国関税政策等によるコスト増で利益率低下
食料	○ 売上伸長と価格改定効果が継続	ペット関連	△ 経費増により利益減少
建設関連	○ 鋼材高・労務費の価格転嫁が順調に進捗	ファーマシー	△ 処方箋応需枚数減少と経費増により収益悪化
自動車関連	○ 新車販売とレンタカー共に好調維持	その他	○ 各事業とも概ね順調

■ 為替の前提条件 1ドル=149円（前期は 1ドル=152円）

■ 原油価格の前提条件 ドバイ原油=70ドル/bbl（上期は 69ドル/bbl 前期は 78ドル/bbl）

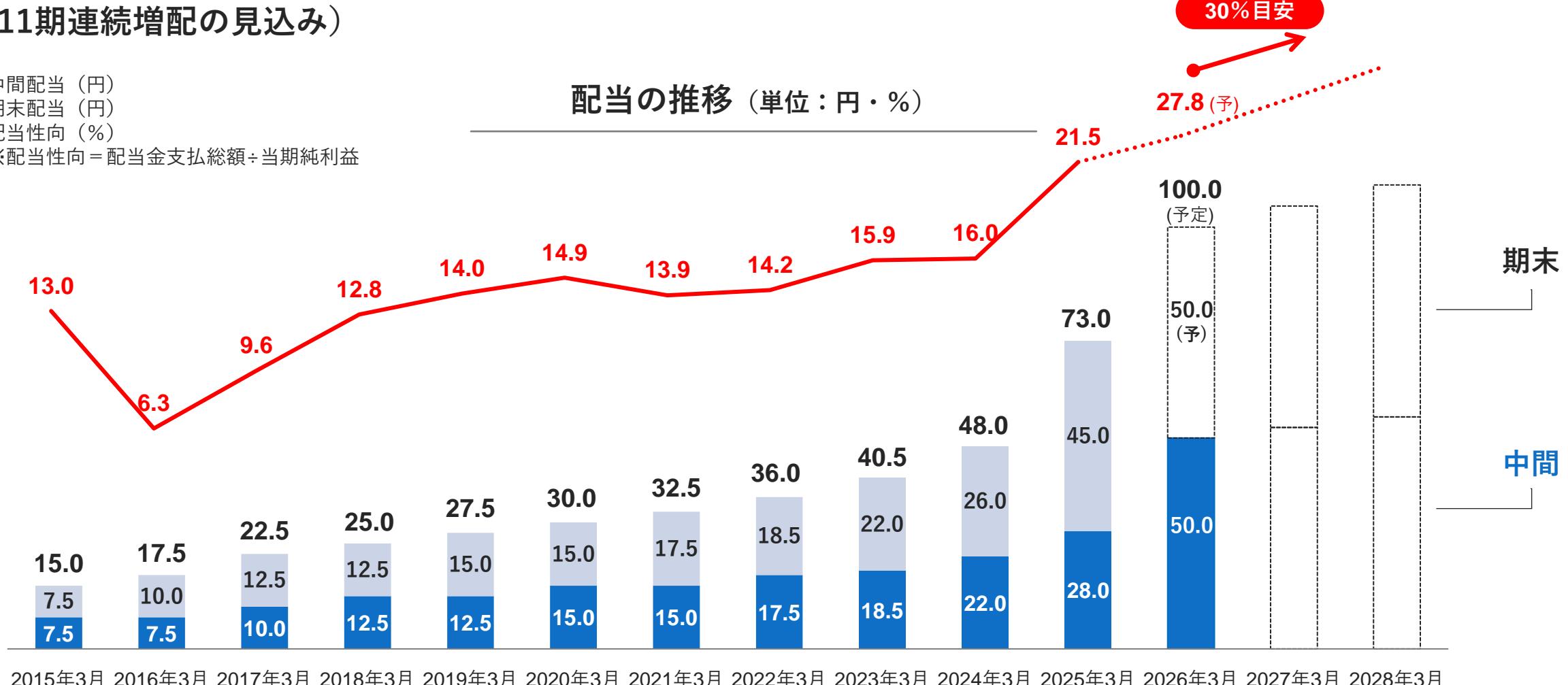
■ 配当額 100円（中間 50円+期末 50円）（予定） *期初見通しに変更なし

■ 累進配当の継続を今後も重視、2026年3月期期初に配当性向『30%目安』へ引き上げ

■ 2026年3月期：年間100円/株（中間配当50円、期末配当50円）の予定に変更なし

（11期連続増配の見込み）

- 中間配当（円）
- 期末配当（円）
- 配当性向（%）
- ※配当性向 = 配当金支払総額 ÷ 当期純利益



2015年3月 2016年3月 2017年3月 2018年3月 2019年3月 2020年3月 2021年3月 2022年3月 2023年3月 2024年3月 2025年3月 2026年3月 2027年3月 2028年3月

03 2026年3月期 第2四半期 直近の事業動向

KAMEI



■新規事業を2件スタート

「TPボトムパイバスケット工法」販売を開始 (2025年4月) (建設関連セグメント)

NETIS登録済

特許取得済

- 弊社のTPボトムパイバスケット工法(*1)が、国土交通省の新技術情報提供システム「NETIS」に登録、販売を開始。
- 従来工法に比べ、設置が簡単で迅速に行えるため、工期の短縮と削減が可能。特に、施工困難な現場で効果を発揮。
- 建設現場での工期短縮、安全性向上、コスト削減を実現、持続可能な開発目標（SDGs）へ貢献を目指す。

(*1) 「TPボトムパイバスケット工法」

既製杭工における杭頭補強鉄筋の位置を調整するガイド機構を活用し、簡易に配筋する技術

TPボトムパイバスケット工法の例



「工業用水処理設備レンタル事業」に関する協業検討を開始 (2025年6月) (エネルギーセグメント)

- 住友電工グループの五興商事株式会社と、工業用水処理設備(*2)のレンタル提供を軸とした新規事業に向け、協業に向けた共同検討を開始。
- 老朽化した排水処理設備の更新負担や環境対応に関する課題に対し、「初期投資無し、月額レンタル料のみで環境基準を満たす設備を導入可能」という新たな選択肢を提供。
- 企業のサステナビリティ経営を支援し、環境負荷の低減と経済性の両立を目指す。エリアを限定して市場検証を進め、正式なサービス開始に向け協議を継続。

工業用水処理設備の例
(凝集沈殿ユニット)



(*2) 「工業用水処理設備」

工場などで使用された、油分や有機物、重金属等により汚染されている排水を、物理的・化学的・生物学的な方法で浄化、法令基準まで処理した上で、安全に排出または再利用するための装置

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、既知及び未知のリスクや不確実性及びその他の要素を内包しており、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願いいたします。

本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。



カメイ株式会社

2025年11月

東証プライム

8037

